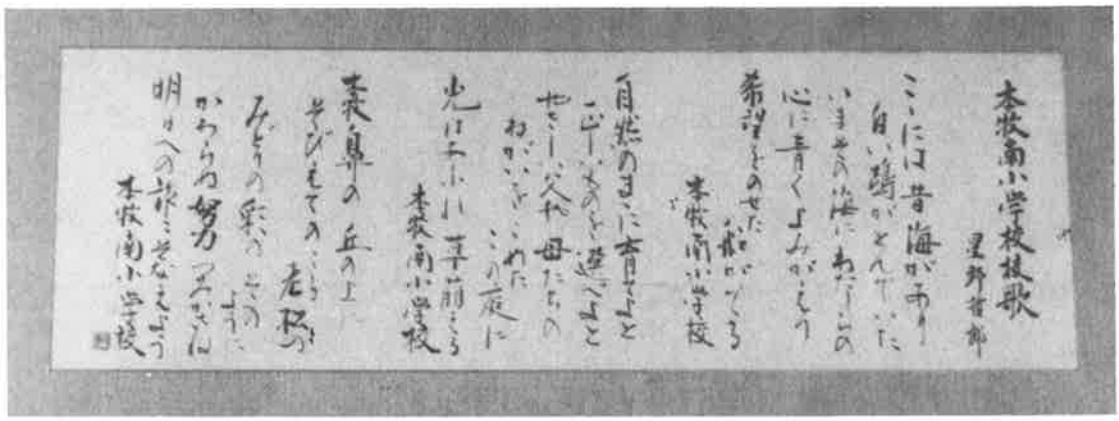
創立10周年記念誌

ほんもくみなみ

1981・6・18

横浜市立本牧南小学校


本牧南小学校校歌
星野哲郎
ここには昔海があり
白い鷗がとんでいた
いまその海にあこがれの
心に青くよみがえり
希望をのせた船がでる
本牧南小学校
自然のまに育てよと
ここで大きく育てよと
せきせい父や母たちの
おもいをこめられた
この庭に
光はそそぐ 草萌える
本牧南小学校
表鼻の丘の上
そびえたつ
老松の
みどりの葉のように
かわらぬ努力 つみかさね
明日への夢をそだてよう
本牧南小学校

目次

一、挨拶 1
二、祝辞 2
三、本牧南小学校の歴史
(1) 地域と学校の発展
ア 本牧海岸ひとむかし
○ むかしの本牧海岸 6
○ 本牧地区の変遷 7
○ 本牧海岸の漁業とうめたて 8
イ 本牧南小学校のおいたち
○ 創立のころ 10
○ 校名 校歌 校章 校旗の制定 11
○ バス通学と集団登校 12
○ PTAの発足 13
ウ 本牧南小学校の発展
○ 運動会と鼓笛隊 15
○ 水泳指導 七夕集会 16
○ 卒業制作物語 17
○ 教育研究の歩み 18
(2) 本牧南小学校十年の歩み 19
四、創立十周年を記念する児童の作品 23
五、本牧南小学校の現況
(1) 本校の教育目標 28
(2) 職員組織 29
(3) 学級編成 29
(4) 職員写真 30
(5) PTA役員委員名簿 31
(6) 学区内・町別・自治会別地図 32
六、旧職員名簿 33
編集後期 34

南小

挨　拶

創立十周年を迎えて

学校長　長島　亘

本牧南小学校の創立十周年を迎え、記念式ならびに各種記念行事を、こどもたちの創意と、ＰＴＡや地域の暖かいご協力で、一つの節目としてお祝いできることを大変嬉しく思っております。

わたくしは、この記念すべきよき年にめぐり合わせた幸福を感謝するとともに、その責任の重大さを痛感せずにはおられません。

本校は、申すまでもなく昭和四十六年四月、間門小学校本牧元町分校から出発し、同年九月一日、本牧南小学校として開校いたしたのですが、開校にたずさわられた教育委員会・真壁校長先生をはじめ親校の皆様・地域の方々に深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

開校から十年で、今のような教育環境と明朗剛健な校風をお作りくださった安岡富士男初代校長先生・二代　輿石桂校長先生、そして職員の皆様に哀心より御礼申し上げます。

先輩の皆様の教育実践の見事な実績は、樹木や教材教具等いたるところで目に触れることが出来ますが、学校運営に永々と生きつづける創立の精神は、日曜運動会等、学校行事に大きな力となって遺憾なく発揮されます。

また、創立以来、物心両面にわたって学校への、ご協力とご援助を賜わりました、初代ＰＴＡ会長　高野尚久氏を始めとする歴代の会長小松孝男氏、山田尚典氏、細野和男氏、現会長の細野高生氏、そして、役員の方々、さらに町内会長さん、地域の地様に感謝と敬意を表する次第であります。

わたくしは、着任以来、これらの立派な基礎の上に立って、今日を迎えたわけですが、これを機会に、本校教育目標である、進んで考える子、元気でやりぬく子、けじめのあるきまり正しい子、明るく思いやりのある子を目指して、努力を傾倒したいと考えております。

ひとりひとりの子どもが、喜びと自信を持ち、やる気十分な子に成長するように真剣に模索し、精進していきたいと願っております。

終りに、今後皆様方の一層のご理解ご支援をお願い申し上げ、挨拶といたします。

「若い芽」――創立十周年を記念して

ＰＴＡ会長　細　野　高　生

本牧の小さな磯辺に船虫が這い廻り、蟹が甲羅干をしている。浜辺は砂地と小石が帯状に区分され、打ち寄せる波は白く泡を吹き、干いた潮の後には、白、薄緑、紺色にまじってピンクの小石。はるかかなたには漁船が数隻波間に浮いている。海はどこまでも青く、八聖殿は濃い緑に包まれ、かもめが飛びかい雲間から太陽が黄金の光を投げかける。まばゆい。汽笛が「ボー、ボー」とその静けさを破る。ある六月の一時……。―今は昔―。

本牧南小学校創立十周年をお迎へ致し、皆様と共に心からお慶び申上げます。

一口に十年とは申しますが、この間社会の状勢、地域の変遷に依り、ここに今頃とは異った環境の中で小さな芽が顔を出したのでした。分校独立当時は緑一つない臨海工業地帯の一角に、講堂もプールもなく、その他の諸施設も整っていない学校でした。あれから十年経ちました現在、広々とした校庭には緑でおおわれ、立派な講堂、プールも出来、この五月には近代的な給食室も完備致しました。時代の変貌にも流されず、大樹にならんと大空に向ってすくすくと伸び始めたのです。

この様な大発展の蔭には、歴代の校長先生はじめ諸先生方の教育への熱愛と、ＰＴＡの方々、地域社会の人々の努力の総和の賜があり無上の慶びでございます。

本校を卒業した生徒も在校している児童もこの恩恵に浴する事なく、道徳律にのっとって成人し、やがて次代を荷うにふさわしい国民と成る筈です。

そして、更に二十年、三十年……否、鶴亀の年に向って良き校風樹立のため益々発展充実されます様心より祈念致します。

最後に、創立十周年記念事業に参画され、大変ご尽力をして頂きました関係者の皆様のご苦労に対し、心から感謝と敬意を表しまして、ご挨拶と致します。

創立十周年をお祝いして

横浜市長　細郷道一

横浜市立本牧南小学校が、創立十周年を迎えられますます発展・充実されておりますことは、まことに御同慶にたえません。

この創立十周年を機に、その創立に至るまでの過去をふりかえり、本牧地区の歴史と埋め立て地の発展や学校に寄せられた地域の皆様の御尽力、先生方の御努力に対し思いを新たにし、今後の教育をいかに推進していくかを考えることも意義あることと思います。

今、私は、市民の皆様が安全で快適な日常生活を送っていただけるようにと「さわやか運動」を提唱し、国際港都の横浜が誇りにできる総合計画づくりを進めているところであります。この横浜の将来を担う子どもたちが、自分の可能性に挑戦し、強く正しく、たくましく育つために、校長先生をはじめ先生方、父母の方々そして地域の皆様が、しっかり手を携え、本牧南小学校の新しい伝統をつくり上げ、まい進されることを望んでやみません。

本牧南小学校の一層の御繁栄と皆様の御健康、御多幸をお祈りして、お祝いの言葉といたします。

創立十周年を祝して

横浜市教育委員会
教育長　小林正和

このたび横浜市立本牧南小学校が創立十周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

本牧南小学校の創立に際しまして、地域の方々の格段のご努力、御協力で昭和四六年九月一日に開校することができました。

ここにあらためて関係者各位に深く感謝申し上げる次第であります。

開校から十年ではありますが、この間に今日の本牧南小学校の栄えある校風を築きあげられたことは、ひとえに歴代校長先生を始め、教職員各位、地域父母の方々の並々ならぬ教育への情熱の賜と思います。

一九八〇年代は「模索と転換の時代」だといわれております。資源エネルギー問題や近い将来確実におとずれてくる高齢化社会等への対応を考えてみましても、国際社会は確かに一つの転機にさしかかっていると思えます。同時に我が国におきましても深刻な転換の時であり、その進展の予測のつかない混迷の時代だとも思います。こういった時こそ、私達は人生とは、人間とは、さらに日本人の果たすべき役割は何かと、真剣に考え直す時だと思います。確かに現代は、物質的に極めて恵まれた環境にありますが、この豊かさ故に、感謝の念、慈愛の心、他人への思いやり、さらに耐える心を忘れがちになっております。このような時こそ、教育の原点にたちかえり、思い切った発想の転換による実践が必要であります。

他人の主体性を尊重しながら自己の主体性を確立していくことのできる人間、常に自己のおかれている立場を考え、見抜き、行動する幅広い視野を持った人間の育成が大切だと思います。ゆとりある、しかも充実した教育のもとに、二一世紀を担う子供たちの健全な心身の育成のために、未来を志向した教育の質的向上になお一層のご尽力をされるよう切望いたします。

おわりに、本牧南小学校が、人間性の尊重を基盤とした教育の中で、教職員と子供たちが一層心を触れあい、学校と地域が手を携えながらますます充実発展していきますことを期待し、私のお祝いのことばといたします。

初代校長　安　岡　富士男

本牧南小学校創立十周年おめでとうございます。安藤広重の浮世絵に不二三十六景、武蔵本牧はな（一八五二年）があります。

今から百三十年前の姿です。本当にのどかな漁村で昔の横浜を想像できる快い風景です。

五十年前私が小学生の頃父親につれられて本牧の海へ泳ぎに行った頃、三ノ谷（一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷）三渓園、海側から見た自然の美しい景観は今もはっきり思い浮べる事が出来ます。そして海浜であさり、はまぐり、まて貝などを取ってはしゃいだ事も楽しみの一つとして頭の中をよぎります。

今ここに京浜工業地帯の一画として又横浜港の活躍は本牧埠頭を生み、すばらしい発展をとげつつあります。昔の本牧村は今横浜の中枢に位置し活動しています。昔日の面影は校歌の一節にもあるように丘の上に僅かにそそり立つ古松に見る事ができるのみです。昔の人はそれなりに世相を写し、幸を求め、日々生活を送ったと思う。現在のような工業都市、国際港都を誰が想像し得たか、世の中は日進月歩、変るものである。本牧南小学校もその中の一点として誕生し時代の要求に応じて立派にその役目を果していると思います。国際港都横浜の子等の教育が叫ばれて久しい、今や日本中が国際人としての教育を受ける時代になりつつある。又自分の事だけでなく他人の事も、自国のみでなく他国の事も、考え行動のできる人、そして心あたたかい思いやりのある人間が要望されていると思います。精神的にも立派になって欲しい。

十周年を迎え、お祝い申し上げると共に、創立当時の先生方、ＰＴＡ、御父兄の皆様、町内の方々の御苦労御努力に対し心からお礼申し上げます。又現在仕事して下さっている方々にも心から敬意を表し、本牧南小学校の益々の発展を祈ります。

ＰＴＡ初代会長　高　野　尚　久

本牧南小学校の創立十周年、おめでとうございます。私は当時のＰＴＡ会長として、学校づくりにたずさわらせていただきましただけに、喜びもひとしお深いものがあります。何事も、はじめて行うことばかりであり、わからないことだらけでありましたが、そうしたむずかしさを乗りこえて、無事本校が歩み出せましたのは、みな初代安岡校長先生はじめ、諸先生方のご苦労と、地域父母の皆様方の独立校に対する暖かいご理解とご協力のお蔭と、深く感謝申し上げる次第です。

間門小学校の分校だった当校が独立するにあたり、まず問題となったのは、学区をどうするかということでしたが、歴史ある親校から、未知の新設校へ移ることに対する不安をこらえてくださり、最終的には現在の学区に納得していただけました。校名の決定につきましても、それぞれが地区や町内の立場をこえてこの地を広域的に考えた末、本牧南小学校に落ち着きましたことは、結果的によかったように思います。

本牧南小学校ＰＴＡの発足に際しましても、夜遅くまで、規約づくりにあたられた役員の方々の情熱と努力は、たいへんなものでありました。現在のすばらしい活動の基盤が、この時に固まったものと自負しております。

本牧南小学校の特色の一つに、あのユニークな校歌があげられます。私は、その歌詞の中にある、不断の「変わらぬ努力を積み重ねし」「正しく」「健やかに」育っていってほしいという父母の願いを汲んで、文字通り立派な教育実践をなされた安岡校長先生に、心より敬意を表しますとともに、それを引き継がれ、発展させられました諸先生方のご苦労にも、厚く御礼申し上げます。

十年の節を迎えたこの機会に、本牧南小学校これまでの隆盛をお喜びし、今後もいっそうの飛躍をとげますよう、お祈り致しまして、私のお祝いのことばにかえさせていただきます。

二代校長　輿石　桂

創立十周年を心からお祝い申しあげます。

「歴史は人のみが創る」といわれます。将に本牧南小の十年の歴史と伝統は、児童と職員、父母と地域の方々との総力の結集された姿といえます。この十年を一つの節目として、前途洋々として生々発展を包含しているのが今日の本牧南小の慶事のように思います。

五十一年三月末、校長として内示を受け、はじめて本牧南小の校庭に立ち、運動場から眺めた時、一芸に秀でた初代安岡校長先生の情念と誠実さを肌で感じ、草創期の職員と子ども、ＰＴＡの方々の実践の手腕を垣間見るおもいがし感銘を受けたことを覚ています。

それから四年五ケ月、いつも本牧南小で学ぶ子ども等が父母と地域と学校を誇りに出来るようにすることを第一に、「地の利は人の和に如かず」を経営理念として、全職員と一丸となって熱中させてもらえたのも、歴代ＰＴＡ会長・副会長さん方の決断と指導性の賜と思っています。そしていつも元気づけてくれたのは、会員のあくなき向上心と献身的なＰＴＡ活動でした。例えば広報紙一つをとっても、市Ｐ広報紙が絶賛をする内容と編集ぶりであり、他の委員会活動は区Ｐ研修会の教材にもなるものでした。又、各自治会長さんや地域の方の児童にかける愛情と期待の深さに頭の下がる思いでした。

五十二年度から環境・施設を改変し、十周年を迎えようと取組み区役所、市教委へ新設・改修工事申請方を日参し、ようやく次のことが実現する運びとなりました。即ち、プール建設、防音壁と防音教室、図書室、印刷室、職員更衣室、給食配膳室と休憩室、屋上・廊下の改修、バス停の日覆い、児童専用歩道橋、砂場、紙屑置場、倉庫、花壇と苑池、ブロックフェンス、等々と全教室へカラーＴＶと理科室に広角ＴＶ、カラー放送スタジオ等が十周年を飾るものとして設置されたり、これから工事されるものです。それらは、関係各位の学校と子等を思うご厚情の結果といえます。施設・環境の充実した中で勉学に励む子等の生きた魂を育くむ教師と父母のすがすがしい声を耳朶に思い、本牧南小のご発展を祈念いたしております。

ＰＴＡ二代会長　小松　孝男

創立十周年を、心からお祝い申し上げます。顧みますと、昭和四十六年四月、間門小学校の分校として開校され、九月には中区でただ一つの新設校として本牧南小学校の校名を受け、初代安岡校長を迎えて独立したのが本校のスタートでありました。

創立当時の地元有志の方々の多大なご支援とご協力には、忘れることのできない思い出がたくさんございます。校名、校歌、運動会のことなどには、たいへんなお力添えをいただきました。この点初代のＰＴＡ会長のご苦労をも痛感し、引き継ぎましたものとして今日改めて深く感謝申し上げたいと思います。

五年生を頭として発足した本校は、近隣校にくらべて、校舎施設は新しいが、教材備品や教育資料に差がありすぎ、学校運営の苦しみも多かったのですが、初代校長はじめ諸先生方の不断の努力と精進により、近代教育を支障なく行うことができました。学校―家庭―地域とが手をたずさえながら校史を築こうを合言葉として、堂々と他校の仲間入りをして、押しも押されぬまでになりましたことは、当時の父母として大いに誇りと喜びを感じた次第です。

教育には十分時間をかけ、一人一人の長短をつかんで引き出す教育指導が、将来期待の持てる子どもを育てるのだという強い姿勢であった〝校長〟今日すでに第三回生の小林君はあこがれの甲子園の桧舞台を踏み、第二回生の梅原君も高校関東柔道選手権で活躍、相撲界で将来が期待されているそうです。また第一回生は、すでに大学の三年生として社会人入りが待たれて楽しみです。これらはただ一つの例にすぎませんが、本校教育の成果の表れといえ、今日一節の年輪を飾ることができましたことは、在校生や次代の子供達の良き手本と励みになることと思います。

現在では施設も整い、またＰＴＡ活動も充実し続けて、ＰＴＡの模範校とも聞かされておりますが、最後に学校―父母―地域と更に関連を密にするとともに、本牧南小に学ぶ子供達の全体的な教育成果の挙揚と本牧と本校のより一層の発展を祈念してお祝いの言葉と致します。

元間門小学校長　真壁虎次

創立十周年おめでとうございます。本牧南小学校については独立するまで、間門小学校本牧元町方面校として関係したので、思い出は深く、喜びもひとしおであります。

本牧元町方面校として建設が決まってから、建設の促進、校庭の整備、学区の問題、通学の安全確保の問題等々父母、地域の人、町内会の方々と何回となく話し合いが持たれました。幸にして多くの方々のご理解とご協力によって、昭和四十六年四月五日本牧元町方面校として開校されました。四十年の歴史ある親校からの別れ難い愛着、新校への期待と不安等々複雑な気持が出るのは当然で、これに対して不安なく、差異のない執行に特に留意しました。新設校に対する父母、地域の人、建築業者の熱情が反映して、半年後の九月一日に独立が決まりました。ここで校名を市に答申することとなったので、父母、地域の方々と話し合ったが実に多くの校名が挙げられました。考えの基本として、学校の所在が本牧地域の南部に位置すること、将来本牧小学校が復興しても差しつかえないこと等々を考えて、「本牧南」小学校の名称がつけられました。九月一日に独立開校式が行われることになり、まことに喜ぶべきことでありました。しかし私はその前日八月三十一日に退職し、当日は悲喜こもごもの気持で式典に参列しました。

横浜市教育委員会は「…充実した教育が行われ、優秀な小学校に育成されることを期待しここに開校を宣言」されました。まことに厳粛な一瞬であり、ただただ児童の幸福を祈るのみでありました。

界たせるかな、十年後の今日、教師、児童父母一体の継続的努力は「充実」した教育が行われ、優秀な小学校に育成され、多くの人の期待に応えておられます。心から敬意を表し、お喜び申し上げます。なお今後一層のご発展を祈念し祝辞といたします。

ＰＴＡ三代会長　山田尚典

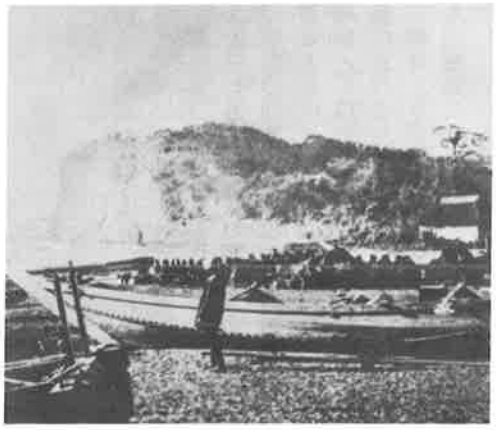
私の長男が昭和四十五年に本牧南小学校（当時はまだ間門小学校の分校の形）の一年に入学し、次男が五十二年に六年を卒業するまでの七年間に亘って、二人の子供がお世話になり、私自身ＰＴＡの一員として本牧南小学校と共に育ってきたわけですが、今年十周年記念をむかえるに当り、感無量の思いです。

現在校舎がある所は、私の少年時代までは大潮の時は潮干狩りの人々が大勢集り、満ちている時はヨコハマ市内一番の海水浴場として賑い、海上には伝馬船やボートが浮んでいたものです。それが昭和三十年代になって大々的な埋立てが始まり陸地となってしまいました。その一角にわが本牧南小学校が誕生したのです。そして本牧の数多くの子供達が学び巣立って行きました。

初代安岡校長先生は、個性豊かな教育理念をお持ちで、生徒を愛しのびのびした教育環境づくりを心掛けられました。運動場南西端にある土山も思出の一つです。

二代目校長の奥石先生のご就任と共に私はＰＴＡ三代目会長をお引き受けしました。奥石校長は力強い指導力をもって、より大きく本牧南小学校を充実させ発展させられました。私達の子供の頃は父兄会と云ってＰＴＡはありませんでした。ＰＴＡの存在によって、本牧南小学校は子供にとってと同様に親にとっても教育の場であると思います。その意味において、本牧南小学校は、この十年間に多くの児童と多くの大人を育ててきました。そして学校自体も各先生方の御努力によって教育内容も進歩し施設も充実してきました。おめでたいことです。これから素晴しい伝統と歴史が培われてゆくことでしょう。本牧の人間は皆この学園を経て少年になり青年となって社会に出て行くわけです。私共、学区の住民として、本牧南小学校をより一層素晴しい心の思い出となる学校に育ててまいりたいと思います。十周年おめでとう。

三、本牧南小学校の歴史



かっての八王子海岸

みなさんは、このがけ下の海岸に見覚えがありませんか。実はこれは、大正時代の本牧八王子海岸の写真（右上）なのです。

本牧岬は、横浜港を囲む南の突出部で、北は十二天の鼻から、三の谷、八王子海岸の断崖、二の谷、間門にかけて広がる台地があり、それこれをはさんで、小さな谷が入りくんでいます。船が東京湾内に入って来て一番先に目に入る陸地は、白砂青松の本牧岬であるといわれ、また「金屏浦白洲の荘」とたたえられる程、昔から風光明媚な所でありました。

この本牧は、かって武蔵国久良岐郡に属し大和朝廷の「牧」として政府に献上する馬を飼育する地域だったといわれ、また弥生式土器の破片や穴居の跡が発見されたりしたことからも、相当古くから先住民族がくらしていたことが想像されます。文化文政の頃の記録によりますと、本牧領は三百四十戸としるされており、半農半漁の静かな村であったようです。

ところで、この写真でも見え、本校の校歌にも歌われている八王子山崖上の老松には、次のような言い伝えがあります。本牧鼻は、いわゆる三角波の立つところで、昔から海難事故が多く、漁民はたいへん困っておりましたが、ある時、紀州から巡ってきた行者に海難除去の呪を懇請したところ、行者は、山上の大松を起点として、三角形の祠をつくり、祭典を行なうべしとの御託宣を下されました。そこで村人は、その三角点に、山王権現、八王子権現、愛宕権限を祀り、祠と石を安置してお祭りを行なったところ、効験あらたかに海難事故は、その後跡を絶ったので、大松は村人みんなの崇敬の的となったというのです。とにかく樹令約五百年の風雪にたえながら、崖下の変化を見守ってきたこの老松が、昭和五十二年の台風によって倒れてしまったことは、誠に残念でなりません。

本牧鼻のあたりが、世の脚光を浴びるようになったのは、嘉永六年（一八五三）ペリー来航に伴う江戸湾警備のためでした。翌年二度めの黒船来航に備え、本牧には、鳥取藩、荒尾駿河守を中心に数千人の武士が集結し、海岸線に十ケ所の砲台が築かれました。古老の話によりますと、異国船が放つ大筒の音（祝砲）は、戸が外れ、障子が破れる程で、男も女も、晒一反を身体中に巻いて、はらわたの破れるのを防いだといい、また庭先に深い穴を堀って避難したとも伝えられています。ある日、異国人十四人の乗った船が、八王子山下に到着し、崖の面にペンキで文字（その一部は「ミシシッピ湾」と読みとれたそうです）を記したため大さわぎとなり、警備隊はホラ貝を吹き立て、見張りをふやし、異状事態に備えて警戒したそうです。

ペリーが、ミシシッピ・ベイと名づけた本牧岬（写真左）の崖下が、今の本牧車庫、漁船のあるあたりが、本牧南小学校の建っている所だと思うと、まさに隔世の感があります。

○　本牧地区の変遷

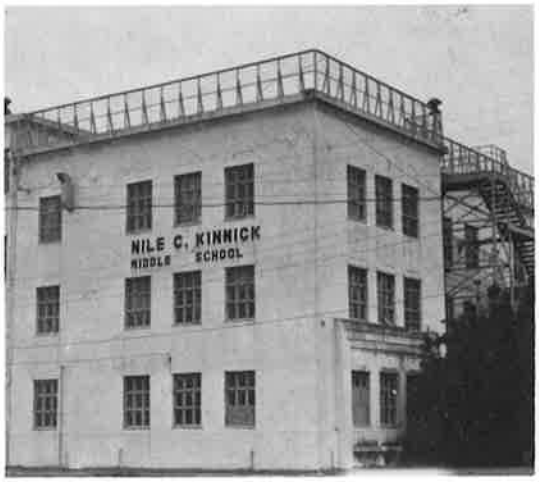
今はなつかしい市電の雄姿です。明治四十四年（一九一一）元町から麦田にぬけるトンネルが開通し、それまで西の橋（元町）まできていた線路が、本牧原（今の四丁目付近）まで延長されました。以来六〇年あまり、市電は、その後をバスにとってかわられる（昭和四十五年に廃止）まで、多くの人々や物資を運びながら、沿線の変ぼうを目のあたりにしてきたのです。

生糸で成功した原富太郎が粋をこらして明治三十九年（一九〇六年）につくった日本式庭園である三渓園を訪れる人も、次第にふえて、終点から三渓園までの道の両側には店が立ちならび、いっそう賑やかになってきました。また、和田山周辺を宅地化して売り出された高級別荘地に通う貿易商人や上流階級の人々も、この市電を利用したことでしょう。外国人のリゾート地帯だった十二天海岸へは、やがて横浜中から、市民が電車に乗って、海水浴や汐干狩にやってくるようになりました。

こうして、本牧線の開通は、関内方面との結びつきを急速に深めながら、本牧地域の発展に大きな役割を果たしたのです。

さて、下の学校は、本校の校名の由来ともなった本牧小学校（現アメリカンスクール）です。本牧には、文政十一年（一八二八）に室野寛爾によって愚明舎という寺子屋が開かれましたが、明治四年（一八七一）、この地の子弟の学びやとして、第一大学区第七中学区二十七番小学、洗心学舎が天徳寺境内に生まれ、学制によって本牧小学校になりました。人口増に伴い大正十二年四月には、大鳥小学校を輩出するに至りましたが、その年の九月一日に起こった大地震とその直後の大火災によって崩壊焼失してしまいました。しかし、大正十五年に再建された校舎は、耐火・耐震の安全性に工夫をこらした、当時としては最も近代的な建築物の一つで、市内三十一校のうち、二番目に完成をみたそうです。基礎工事を十分にし、建物をコの字形に配置した鉄筋コンクリート三階建で、中庭をもち、内部は三か所の階段のうち、一か所をスロープにして避難しやすいように考えられているなど昭和二十年の大空襲で廃墟となった本牧の建物の中でも立派に生き残ることができました。そして終戦直後の米軍占領、たった一週間の猶予しか与えられず立ち退かされたという強制接収と、それによる本牧地域の人々の苦しみ、米軍ハウスと野球場の間を通っていた市電から、やがてバスへ移り変わり、漁業地帯から産業地帯への変ぼうなどを、つぶさに眺めてきたのです。接収後の本牧小学校は廃校となり、児童が両隣の大鳥小・間門小に分散吸収されたあと、アメリカンスクールとなりましたが、近年接収地返還の動きがあり、この記念すべき建物の保存が切望されています。

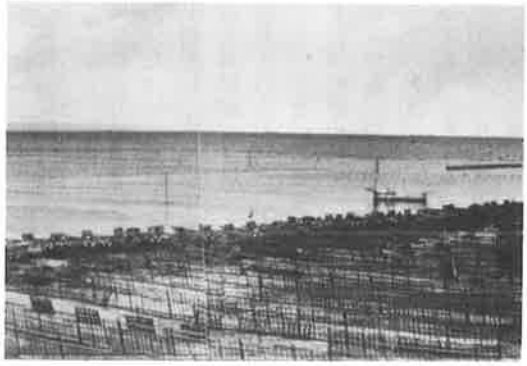
麦田トンネルを出た市電



アメリカンスクール（旧本牧小）

○ 本牧海岸の漁業と埋め立て

十二天海岸から八王子の浜辺にいたる無数の「のりひび」。のり取り船をあやつり、又干潮時には海中につかりながらのりをとる。これがおよそ二十年前までの本牧海岸で、十二月から四月中旬までの間によく見られる光景でした。とりたてた農産物のないこのあたりでは、明治の頃から浅草のりの養殖がさかんで、一時はこれに従事していた漁師が、一五二名にも達しました。「のりひび」には、ならやけやきの木が用いられ、後には孟宗竹の枝を束ねて海中にさして自然にのりがついてくるようにしました。ざるに採取したのりは機械で細断され、水の入った四斗だるの中で撹拌しながら、よしずの上で箱に入れ、一枚一枚すいていくのです。冬の日照時間を考え、この作業は真夜中から始められ、日の出ごろにすき終わると、それを干場（台ず）にかけるのです。一棚からの水揚高が、一日約一〇〇〇枚前後ということですが、こんな棚が全部で三千七百五十棚もあったときがありました。



本牧海岸ののり

四月から十一月頃までは、船で魚の漁が行なわれていました。漁の種類は、六人網、六駄網、藻立網、延縄網、見突網、打瀬網などです。とれる魚は、いわし、カレー、黒鯛、すみいか、わたりガニ、キス、コチ等が多く、貝類では、あさり、青柳などがよくとれました。漁船も、小さいものを含めて、三〇〇～三五〇隻ぐらいあったそうです。

頭が馬、胴が亀の形。これが、本牧神社の「お馬流し」（八月第一・第二の日曜日）のために参加の地区が、かやで作ったお馬です。

本牧はその昔、朝庭に献上馬を出していたところで、馬の疫病がはやった折、その魔よけのためこの神事が考えられたとされ、胴の亀には、漁師たちの豊漁の願いがこめられています。

儀式はまず、かって十二天の小山のふもと（現マリンハイツ前）にあった本牧神社の祭だんに、六頭のお馬を奉納します。神主の祝詞（のりと）を受けた後、頭上にかかげられたお馬は、氏子総代を先頭に行列して海岸に下りてから、各船に渡されます。屈強なこぎ手を庸して沖に出た祭礼船は、お馬を静かに海上に流すと、反転して後を振り返らず、県命に岸へ向って競争しながら漕ぎもどり、帰った順に社殿にお詣りし、手じめで終わります。現在では、大鳥小学校近くに移った本牧神社から、お馬を先頭にして旧本牧町内をまわったあと、本牧埠頭の新しい船溜りから二隻の発動機船を用いてお馬流しをしていますが、毎年盛大で、当日は多くの見物人で賑います。お馬が沖に流れず、岸に着くときは、伝染病が蔓延し、不漁になるといわれますが、この行事には昔からこの地区にくらしていた人々の、邪神を取り払い、大漁を希念する素

お馬ながし

朴な気持ちが、伺われるではありませんか。

さて、そんな本牧海岸に住む人々の生活に直接かかわる大問題が持ち上がりました。昭和三十四年（一九五九年）市は、横浜港の機能強化をはかるため、山下埠頭の建設、さらに本牧海岸の埋め立て、本牧埠頭とその関連産業地域の造成を計画しました。市の話によると埋め立て地の目的は、港湾施設の拡充と工場地帯の確保、関連した交通・商業・住宅地域の建設にありました。海を失い、漁のできなくなることから当然市と地元漁業協同組合との交渉は難航しましたが、漁業補償と本牧埠頭への新漁港建設ということで、大筋が合意し、組合の総会にかけられ、約七〇％の賛成で埋め立てが決定されました。

着工前の本校敷地

漁師の多くは、本牧沖は波が荒く、汐の流れも早いので、埋め立ては無理だろうと思っていましたが、造成区画を堤防で囲み、その外側を浚渫した砂で、内側を埋め立て、さらに磯子区岡村周辺の山の土などを積み上げて行く、最新の工法と、最先端の機械を駆使し、天候に恵まれたこともあって、工事は、昭和三十六年開始以来順調に進み、予定より早く、昭和四十一年に完成しました。昔から風光明媚な所といわれ、長い間海水浴や汐干狩等で親しまれてきた海岸線は、すっかりその姿を消してしまったのです。漁師のほとんどは転業し、今では漁業等にたずさわっている者約三十人、漁船の数も、二十五隻になってしまいました。

しかし、造成された埋めたて地（錦町・かもめ町・豊浦町など）には、前記の諸施設の他、市民の要望を入れて、広い緑地帯や本牧市民公園、泳ぎのできなくなったかわりとしての本牧市民プールなどが建設されました。かつてのミシシッピ・ベイの崖下には、市バスの本牧車庫、そして昭和四十三年には、本牧埠頭の近くに、本牧港湾住宅、ついで四十八年にはマリンハイツの建設が始まったのです。それは、この本牧地域に新しい時代の到来を告げる前ぶれでありました。青々とした本牧の海は、今まさに私たちの心の中によみがえり、未来に向けての、新しい希望に満ちた船出が待たるのでした。

現在の本牧海岸

開校直後の校舎

第１期校舎建設

イ　本牧南小学校のおいたち

○　創立のころ

初めて訪れた新校舎（現在の東半分）は、埋立地の堀り返された泥土の上に、陽光を一ぱいに浴びて立っていました。まだ一点の緑もなく、まどからは日本石油の赤さびたタンクが並んでいるのが見えるばかりー。昭和四十六年三月、膚寒い春先の誕生でした。

待望の新校舎の設立により、間門小学校から約十名の職員と五百名の児童（錦町・かもめ町・豊浦町・四丁目を除いた本牧元町の一年生から五年生まで）が移ることになりました。四月五日、さらに新進気鋭の先生方をお迎えして、十四学級が横浜市立間門小学校本牧元町分校としてスタートしました。

新校舎に一歩踏みこむと何もかもが新しく清清しい感じがしました。ピカピカ光るビータイル、鼻をつく机や椅子のニスの匂い。しかし、そんな中で子ども達の行動はどこか不安気に見えました。「新しい学校の伝統をわたし達でつくるのだ」を合言葉に子ども達を励まし、また時には子ども達に励まされながら、新しい一日一日が始まりました。九月一日には、初代安岡校長を迎えて横浜市立本牧南小学校として独立しました。しかし、「新しい学校で大変でしょう」となかなか一人前の扱いがしてもらえません。そんなころ、市の児童体育大会で岩崎睦君が走り幅飛びで四メートル九十一センチの大会新記録を出して皆の大きな励ましとなってくれました。苦労話をあげればきりがありません。当初水道が使えず水筒持参の日日、校庭整地のための石捨い、新しい校具の運搬、教材教具の不足など。保健室にベッドが入ったがふとんが無い病人は出るはで、とうとう校長先生が自宅からふとんを運んで来られたこともありました。しかし今思えば、生みの苦しみは生みの喜びに通じるものであり、皆で力を合わせて頑張った日日は、さわやかな思い出です。

以後校舎は増築を重ね、四十七年七月一日プレハブ（五十一年に解体）・四十八年三月十日校舎（現在の西半分）・五十年八月十三日講堂と次々に設置されました。五十二年二月二日プール完成、五十六年には放送室の大改造が行われ、現在は調理室の改築完成も目前です。一方研究面でも着々とゆるぎない歩みを進め、内外共に立派に十才としての成長を遂げました。次は当時の六年生の子どもの作文の抜すいです。子どもたちの当時の心情をお聞きください。

「（略）校舎は新しいけど間門と比べると小さい。設備は整っていなくてがらんとした感じがする。仲のよかった友達とも別れてしまって、名前も『本牧元町分校』なんていなかの学校みたい。初めのうちは、「間門にいた方がよかったなあ」と思っていた。だけど、家からずっと近くなったし、あぶない所も少くなった。そして五か月目には、本牧南小学

校という一つの立派な学校として独立し、学校の設備も整ってきた。新しい友達もたくさんできて、このごろでは、自分の学校をすごくいいと思うようになった。（略）」

○　校名、校歌、校章、校旗の制定

・校名の制定

当時は当然のことながら、誰もが「将来の発展を願って、立派な校名がつくように。」と願っていました。そんな期待の中で、学校側、町内会、ＰＴＡ等の代表によって、協議が重ねられました。いろいろな候補名があがりその度に一喜一憂したものでしたが、最終的には「横浜市立本牧南小学校」と決定しました。これは地元の人々からの強い要望により地名の本牧をとり上げたものですが、従前の本牧小学校との混同を避けて、本校が本牧の南部に位置しているので、南を入れて「本牧南小学校」と決定したということです。

・校歌の制定（昭和四十八年三月十二日）

作詞者　星野哲郎氏

作曲者　鏑木　創氏

学校の象徴である校歌は、いつの時代にも子ども達の心の拠り所として歌い継がれ伝統を伝えます。そのような大事なものが創立二年目に、しかも大変ユニークなものが出来上ったのですから喜びはひとしおでした。それだけに校歌作成に当たられた初代の安岡校長先生とＰＴＡ会長高野氏のご苦労は大変なものであったことでしょう。高野氏はその頃の様子を次のように話してくださいました。

「星野氏は、歌詞を書くのに当って、何回も当地を訪れました。そして学校の屋上に上がって回りの景色を見たり、土地の人々の話を聞いて回られました。また鏑木氏は、他の校歌にないようなクラシックと歌謡曲の中間の感じの$\frac{6}{8}$拍子の曲を作られたのです。」

校歌の発表会当日は、雨にもかかわらず、ＰＴＡなど関係者も多数参加され、県警ブラスバンドが校庭をパレードするのを、子ども達は教室の窓から歓声をあげ、校歌の誕生を祝いました。

現在使っているレコードは、当時の高学年の子ども達が六本木のスタジオで吹き込んだものです。費用の関係で、バンドの人が録音しておいたものに合わせて演奏したそうで、今のからオケの元祖というところでしょう。

・校章の制定（昭和四十七年二月十七日）

考案者　木村宗吉氏

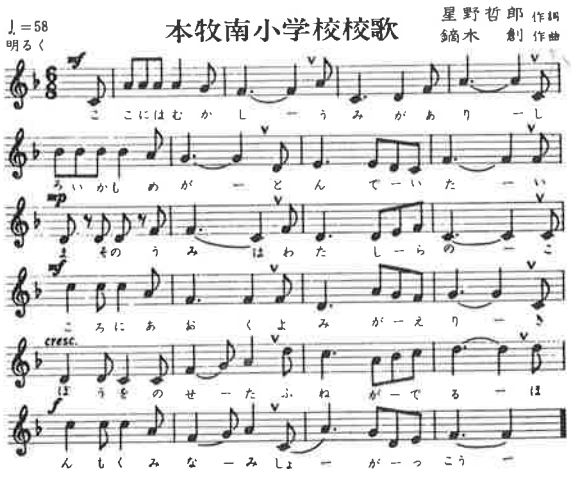
本牧元町二三九

ＰＴＡ発足と共に、校章を一般募集し、二百程集った中から木村氏の考案された校章が入選しました。外周の八角形は八聖殿に安置されている八聖人を表わし、六つの波型はかつての八王子海岸の波を、また子ども達の仲睦じい学びの庭を願って決められました。波型は白、文字は金色、中は海の色を表わすライトブルーでまとめられています。

・校旗の制定（昭和五十年九月六日）

考案者　初代校長安岡富士男氏

校旗はたて六十五センチメートル、横一メートルで周囲を金色の房で囲み、中央に校章を浮き出しています。地は濃紺で八角は銀色、八角に囲まれた地が水色、校名が金糸で縫いとられています。初めは白地に手がきをしたものを使用していましたが、クリーニングしたら脱色してしまって、大あわてしたことなど、今は楽しい思い出となりました。



○　バス通学と集団登校

長いガード・レールに守られた歩道を、子どもたちはきょうも元気に集団登校して来ます。歩道橋に上るこちら側の階段（写真）は通学児童のために興石前校長と金沢錦町町内会長とで市当局に交渉し、地域住民の協力を得てあとからつけられたものです。橋の上から見ると、ちょうど一年生の乗ったバスが、足元をくぐり抜けて行きました。全校児童の約六〇％を占める錦町の団地から学校までは約三キロ、子どもたちの足で、ざっと四〇分かかります。途中何の遮蔽物もなく、風雨や直射日光にさらされる心配があり、また交通のはげしい産業道路に面して危険性もあることから隣りの本牧車庫のご厚意もあって間門小学校時代と同様しばらくバス通学を続けてきました。しかし、通学路の整備に伴い、これからは、むしろ徒歩通学を利用して積極的に強い意志と体力をつくるべきではないかということで、父母・地域の方々のご理解、ご協力のもと、昭和五十年度からバス通学は一年生だけとなり、二年生以上は徒歩通学に、そしてさらにそれは地域の連帯感を高めるための集団登校へと移行していきました。この辺のいきさつを、錦町の町内会長の金沢章氏は、創立十周年記念に寄せて、次のように述べておられます。

『次代を担うべき児童・生徒の非行防止とその健全なる育成という町内会運営の重点施策の一つとして、昭和五十三年四月、当時本校ＰＴＡ副会長で、錦町町内会子供会会長であった佐藤登氏の提案により、町内会三役及び執行部協議の上、興石前校長並びに担当諸先生方の御指導と御協力を仰ぎながら、二年生以上の集団登校が開始されました。私共がこの集団登校で意図したものは、

集団登校

バス通学の１年生

一、児童生徒としての自覚と自主性の確立

二、各人の責任感の向上

三、団体行動による協調性の促進

等でありました。過去三年間の実績は、まだ私達の希望するところまではいっておりませんが、これを持続させることによって、必ずや初期の目的が達成されるものと確信致します。

さらに集団登校途上における安全性については特に腐心したところでありますが、昭和五十三年五月、興石前校長と私で直接横浜市当局に折衝致しました結果、細郷市長も私共の熱意を御理解下さり、一二〇〇米に亘るガードレールの設置及び錦町第三歩道橋昇降段の改造工事が、陳情以来僅か四ヶ月目にガードレールの全工程、翌五十四年六月には歩道橋の完成を見るに至ったのであります。爾来今日まで登下校途上における安全性は完全に確保されております。

想えば昭和四十三年、当本牧港湾団地住宅第一期工事完了直後入居した住民の子供達は遠く間門小学校まで徒歩通学致しました。雨の日も、風の日も、そして雪の降る中を、懸命に通学する子供達の姿があったのであります。中国の諺に「井戸水を飲む人はその井戸を掘ってくれた人のいたことを忘れてはならない」という言葉があります。スクールバスがあり、スクールゾーンも整備された現在、父兄の方々にも苦しかった過去の環境を思い起すいたわりを持って欲しいものと思うのであります。』全く私たちは、こうした先人のご苦労を忘れてはならないでしょう。

○　ＰＴＡの発足と発展

本校が、市立間門小学校本牧元町分校として開設当時、親校の真壁校長は、独立を予想して、本牧元町の学区から、有力者高野尚久氏を副会長に起用しておりました。独立が確定した昭和四十六年七月九日、第一回ＰＴＡ独立準備委員会が開催され、高野氏の本牧南小学校ＰＴＡ初代会長推せんと、規約原案の作成が行なわれ、独立直後の九月十六日、第一回ＰＴＡ総会で、ともに承認を受けました。以来十年間、本校ＰＴＡは、一貫して次の目的達成のために活動しております。

一、学校、家庭、社会における児童の福祉を増進する。

二、民主教育に対する理解を深め、またこれを推進して、地域における社会教育の振興を助ける。

三、父母と教師と一般社会の協力を促進して児童の心身の健全な発達をはかる。

四、学校の教育的環境の整備をはかる。

五、会員の研修、教養の向上をはかる。

初代会長、高野尚久氏は、独立間もない本校ＰＴＡの基礎づくりのため、先頭に立って精力的に尽力されました。また、当時の本校の諸施設が不十分であるのを補うため、ＰＴＡ事業後援会を組織し、その会費（一口五十円）を設備の充実や教育活動の補助にあてながら現在までに至っています。

会長は、その後、二代小松孝男氏、三代山田尚典氏、四代細野和男氏、五代現会長の細野高生氏へと移って参りましたが、この間、役員、実行委員の固い結束と、会員の協力によって、昭和五十年十二月「優良ＰＴＡ」として市教委より表彰されるなど、数多くの実績を挙げてきたのであります。

ＰＴＡ総会

創立十周年記念バザー

発足当初の常任委員会は、予算案と事業計画案を作成する総務委員会、ＰＴＡ新聞を発行する広報委員会、学校の教育的環境の整備を図り、児童及び会員の福利に寄与する施設厚生委員会、校外生活指導と保健に関する保健委員会、父母を中心とした成人教育を企画運営する成人委員会の五つがあり、各学級委員が分担所属していました。

昭和四十八年三月より、施設厚生委員会は保健委員会といっしょに保健厚生委員会になり、新らたに、学年学級ＰＴＡの企画運営にあたる学年委員会が生まれました。さらに昭和五十三年四月一日の規約改正で、従来の総務委員会に代わって、地域における児童指導と地域環境の改善をはかる校外委員会が設定され、現在のような五委員会組織になりました。昭和五十六年度の常任委員会の主な活動内容は、次の通りです。

○校外委員会　避難訓練（集団下校）の世話
　スクールゾーンの点検、水の安全講習会、
　地区別プールに参加

○広報委員会　ＰＴＡ新聞発行（活版印刷、
　手刷り、壁）

○保健厚生委員会　健康手帳へ愛の検印、う
　歯の治療勧告への協力、給食試食会、校内
　清掃、区市県保健大会への参加、保健委員
　会だよりの発行

○成人委員会　社会見学、講演会、鎌倉散策、
　コーラス、スポーツ実技研修

○学年委員会　学年学級　親睦会、学年学級
　懇談会、ベルマーク収集、カーテン洗濯
　これを見てもわかるように、今や本校ＰＴＡの活動は、他校のそれとくらべて決して優るとも劣らない程に成長してきたのです。

初代会長高野氏は、その退任にあたり「二

年半をふり返って」広報（四九・三・二〇号）に次のような一文を寄せています。

『ＰＴＡが戦後、米軍のアドバイスによって作られたのが、昭和二十三年ということですので、今年はＰＴＡが発足してから四分の一世紀となります。つまり近隣の小学校のＰＴＡは、二十五才の大人であります。我が本牧南小学校には、この二十五年の歴史と経験がないために、困難な事も種々ありましたが、何ものにも煩わされずに行動でき、すべてが実験的作業でした。』そして、三年目を迎えるにあたって、本校ＰＴＡに望むこととして、一つに「よいＰＴＡづくりは、行事への会員多数の参加と活動による」ものであること、二つに「子どもの本当の意味における幸せのため、地域社会の大人は互いにもっと協力しなければならない」という趣旨のことを述べておられますが、これは、現在の本牧南小学校ＰＴＡにもそのままあてはまる言葉であるといえましょう。

初代会長
高野尚久

二代会長
小松孝男

三代会長
山田尚典

四代会長
細野和男

五代現会長
細野高生

歴代ＰＴＡ役員等名簿　〔役員・会計監査・実行委員〕

横浜市立本牧南小学校ＰＴＡ

役職＼年度		47年度	48年度	49年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度
会長		高野　尚久	→	小松　孝男	→	山田　尚典	→	細野　和男	→ 細野高生	→
副会長		小松　孝男	→	山田　尚典	→	青木　培次	細野　和男	門脇　育子	細野　高生 福谷　尊子	→
		竹中万里子	赤沢　玲子	→	並木　京子	赤沢　玲子	佐藤　登	→	岩崎千恵子	佐藤賀津子
			太田　良人	→	坪江　満子	久保　トシ	→	星　真知子	→	玉石　久夫
会計		角田　龍真	堀　福子	坪江　満子	松本　幸子	→	星　真知子	佐藤賀津子	→	渡部美美子
		田中　明	→	→	→	→	→	磯崎　和夫	→	→
書記		中村　裕子	→	木村　泰子	→	小助川美保子	上田　幸子	大貫とも代	→	黒柳　市枝
		奥野　正明	→	→	→	会田　貞子	木村　和子	→	川瀬　節子	→
会計監査		山田　尚典	→	門脇　黎吉	→	岡崎はつえ	→	山下　節子	→	山本　葉子
		田村　利雄	→	石田　律子	→	佐々木謙二	浅沼　寿子	→	後藤　孝子	→
		石原　暢子	平出　速雄	大石　信子	→	岩崎ミサヲ	松村久美子	→	長澤　勲	長澤まさ子
実行委員	学年委員会 1年部会	大隅みき子	門脇　育子	相馬　幸恵	佐藤　栄子	福谷　仲子	加藤るり子	松本みよ子	佐藤　睦子	大溝久美子
	学年委員会 2年部会	宮沢　桂子	山田伊勢子	門脇　育子	天野　照子	須藤　君子	福谷　仲子	福谷　尊子	天田　嘉代	清水ひろみ
	学年委員会 3年部会	石田　律子	並木　京子	雨宮　芳子	久保　郁子	岩崎千恵子	木下佐知子	佐藤　睦子	福谷　尊子 磯部　良子	天田　嘉代
	学年委員会 4年部会	山下　和子	木下つる子	並木　京子	岩崎千恵子	門脇　育子	佐柄紀美子	桜井　悦子	斉木　房子	高橋多恵子
	学年委員会 5年部会	赤沢　玲子	小松　淑子	藤田　和子	田中ナナ子	大隅みき子	黒柳　市枝	黒柳　市枝	大溝久美子	江原　光子
	学年委員会 6年部会	岩村富紗子	大隅みき子	石原　暢子	藤田　和子	福谷　尊子	大隅みき子	藤田千恵子	雨宮　芳子	常盤　広子
	総務委員長 校外委員長	日高　晴子	斉藤　勝子	→	松村久美子	佐藤賀津子	大石　信子	夏井　道代	→	清田　民子 鈴木美貴枝
	広報委員長	大橋　智子	藤田　和子	岩崎　久子	須藤　幸子	佐藤多美子	佐藤賀津子	渡部美美子	→	桑原　幹子
	成人教育委員長	木林トキ子	赤沢美代子	豊岡　キク	西川ミチヱ	黒柳　市枝	門脇　育子	岩崎千恵子	小川　正子	原田太智子
	保健厚生委員長	並木　京子	津田　静江	山崎　和子	久保　トシ	溝上　孝代	桜井　悦子	江原　光子	寺崎　瑞恵	→

本校自慢の鼓笛隊

運動会名物応援合戦

運動会の応援団長

五十五年度卒業生
高橋　健二

ぼくは、運動会の応援係をきめる時、自分から、立こうほしました。一年生に入学の時から、先ぱいがやっているのを見て、自分もぜひやってみたかったからです。でも応援団に入ってみると、毎日、練習練習でいやになりました。団長のぼくがなまけそうになるのに、みんなは、一生けん命やってくれました。みんながなやみ考えたすえ、すばらしいかえ応援歌ができました。それは「もも太郎」と「一発かん太君」のかえ歌です。じょうずなふりつけも、くふうしました。

運動会の日、朝礼台の上に上がると、体全体がふるえてきて、うまくできませんでした。でも、あとから考えると、ぼくはあの時勇気を出して手を上げて応援団長になり、よかったなと思います。みんな、何事にも勇気を出してやった方が得すると思いますよ。

ぼくは、もう一度中学でも、応援団に入ってみたいと思います。その時小学校のような勇気が出るか心配です。でも出なければ、いつか朝礼で話を聞いた「やる気」「根気」「元気」「本気」でやってみるつもりです。

鼓笛隊

五十三年度卒　菅原　洋子

最終的に出来あがったのが、運動会の前日、「本当に明日できるのかな」って不安だった。―開会式―「ピー　ピッピッピ」笛の合図で行進、何を考えながら歩いたのか自分でも、全然わからない、長く感じる。でも、初めてにしてはまあまあ、やりとげた鼓笛隊は、私にとって大事な思い出の一つ、本牧南の伝統として、ずっと続けてほしい。

笠間小副校長

奥村　正明

運動会の日取りを決めるにあたって、父母の方から日曜日にやってほしいという要望がでましたので、職員会で話し合いました。一方で、学校の教育活動の一貫として、体育学習を発表させた学校行事としようという考え方もありましたが、地域社会との交流を深め結びつきを強めることがより大事であるということになり、日曜運動会となりました。以来毎年、前夜から徹夜で場所を確保しに来る方もいるほどで、盛大に行われています。児童・父母・先生方がそろって参加でき、親子のふれ合いや父母同志の親睦を深めることができる点で、日曜運動会は意義あることだと思います。

水泳クラブに入って

六年二組　益　本　　淳

五年生になってから、ぼくは、夏の水泳クラブに入って泳ぎの練習をすることにしました。ぼくは、水泳が好きでしたが、今までのタイムよりももっと速くして、中区の水泳大会に出たかったからです。

小学校の水泳クラブなのだから、練習は、そんなにきつくないだろうと思っていたので最初のころは、やる気まんまんでした。でも実さいは、すごくきびしいのでびっくりしましたし、だんだんいやになって、出るのをやめようかなと思うようになりました。けれども、やり出したら最後までやりとげなければいけないと自分に言い聞かして、毎日毎日、水泳クラブに通いました。そのためか記録も少しずつ伸びていきましたが、大会に出る人を発表する日は、さすがにドキドキしてしまいました。先生から、五〇メートル自由形と二百メートルリレーの選手に選ばれたときはとてもうれしかったです。

中区水泳大会当日、ぼくは、五〇メートル自由形を、自分のベスト・タイム四六秒三で二位、二百メートルリレーも好記録で学校代表としての責任を果たすことができました。ことしも、六年生最後の思い出に、ぜひ水泳クラブに入って、がんばってみたいと思います。

水泳指導

第六回七夕集会

六年三組　小　林　大　輔

ぼくたちの組が、こうどうに入ると、もう下級生が、いっぱい集まっていました。全校が一・二組と三・四組に分かれてやるのですが、ぼくは、三・四組だったので、よかったなと思いました。それは、知っている人ばっかりいたからです。まわりには、たんざくやきれいなかざりのついた大きい竹が、六本立っていました。ぼくは、たんざくに「字がいっそううまくなるように」と書きました。

各学年の代表の人が、たんざくに書いたことばを発表したあと、アニメ・クラブが書いた絵をうつしながら、文芸演劇クラブが作った物語「星の砂」（自作ＶＴＲ）を見ました。

それから、低学年よりじゅんに、いろいろなえんぎを、とても熱心にやって見せてくれました。それらを見て「うまいなあ」と思っているうちに、ぼくたちの番にまわってきました。はずかしくなるような気持ちで、どきどきしてたまらなかったです。

ぼくらがやったことは、音楽です。ふえと歌で「星の世界」と「口笛ふいて」。しかもぼくは、そのしき者です。みんな熱心にやったので練習の成果が出ました。ぼくも少しきんちょうしていましたが、終わってみるとかえって楽しかったという気持ちでいっぱいでした。ぼくは、今から思うと、やってよかったなあと思ったし、五年生の短い一年間の思い出を、りっぱにつくれたと思いました。

七夕集会

56年度卒業式テーマ「未来」

タイル壁画とトーテムポール

卒業制作物語

昭和四十六年度、本校創立当時は、初代安岡校長以下職員数二十四名、学級数十四、六年生のいない児童数四九八名の小規模の学校として出発しました。

昭和四十七年度、本牧南小学校第一回卒業生（一一八名）は、二年間にわたり最高学年として全校児童のためにいろいろと力を尽してくれました。その卒業制作、壁画「二十一世紀の学校」（西昇降口）には、創立当時の学校づくりに対する意気ごみと、母校の未来に寄せる限りない夢が託されています。

昭和四十八年度卒業生（八七名）は、校歌にちなんだカラータイルのはり絵（東昇降口）を残しましたが、そこには、本校の基礎づくりがある程度かたまった中で、今後母校がそして在校生みんなが、丘の上の老松に見守られながら、ますます健やかで、正しく育ってほしいとの切なる願いがこめられていると思います。

昭和四十九年度卒業生（一二二名）は、校舎模型、昭和五十年度卒業生（一三八名）は市の指定研究「算数」「特活」の発表会を最高学年で経験し、その残したトーテンポールの一つ一つは、今も正門前をかざりながら、母校の成長発展を祝い励ましてくれています。

昭和五十一年度（一五六名）は、正門わきの焼き付けタイル壁画で、二代輿石校長の手になる築山と対になっています。

昭和五十二年度（一三二名）は、音楽に体育に全市へ向けて名をあげた本校の校章を、卒業生全員でブロック彫刻し、前年、新装なった体育館入口右上にはめこんであります。かつての八王子海岸の一角にそびえ立つ学び舎の中で、八賢人にあやかって、立派な人が次々と育ってほしいと、それは無言のうちに語っているようです。

昭和五十三年度（一四八名）は同じ体育館正面左上に校歌のブロック彫刻、昭和五十四年度（一七一名）は、正面玄関右上に銅板壁画。昭和五十五年度（一六六名）は、体育館入口左上の未来壁画。大切にしたいものです。

高田小副校長　**田中　明**

本牧西小学校第一回めの卒業生は、三クラス一一八名です。講堂がないため、卒業式は机・椅子を出した職員室で行いました。形式ばらないで、たりない中にも有意義な卒業式をと話し合い、音楽によって雰囲気をもりあげようということになりました。各学年の応援をえてきれいなコーラスをつけ、送る方も送られる方も、しっとりとした情感につつまれた中で、気持ちよく終わりました。今振り返ってもなつかしい思い出です。

教育研究の歩み

本校における教育研究のはじまりは、昭和四十八年度からです。創立当初のあわただしい学校経営基礎づくりが一段落したこの年は、また教育課程における内容精選が、大いに叫ばれた年でもありました。それまで親校の間門小学校のカリキュラムによって授業展開をしてきた本校では、ようやく自校の実態に合わせて「内容精選した教育課程」を作ろうとの機運が高まり、国語、社会、算数の三教科について作成し、授業を通してその指導法を研究しました。

そうした過程で、本校児童の実態が浮きぼりにされ、学習・生活両面から検討が望まれていました。たまたま、横浜市教育内容方法開発委員会より、実験校の依頼があり、児童の教育のため、また職員の研修のためにこれを主体的に受けとめ、昭和四十九年・五十年の二年間、研究することになりました。そこで基礎学力の充実という観点からは、算数をとりあげ、「数学的な考え方を育てる乗法指導の研究」生活指導の充実という観点からは、特別活動をとりあげ、「望ましい生活習慣・態度の育成をめざした学級指導の研究」のテーマで、校内を二分してとりくんだのです。後者については、奥村正明研究主任（現笠間小副校長）のもと学級指導と道徳や学級会活動が、互いに関連をもつような指導計画を作成し、授業実践した結果を、五十年十一月に、全市発表しました。前者については、杉山サト研究主任のもと、乗法の素地・乗法九九・乗法の意味や計算についての具体的な指導事例を五十一年二月に、全市発表しました。

放送教育研究発表会

特活算数研究発表会

昭和五十一年度は「調和ある人間形成をめざす」見地から、技能的な教科の理科・音楽図工・体育について、実技を伴う指導法の研修を行いました。

さらに昭和五十二年には、前年の研修の中から、特に音楽と体育について継続してとりあげ、二年間研究することになりました。音楽の方は、会田貞子研究主任のもと「音楽的感覚を育てるための鑑賞・表現の指導」について研究五十四年二月に区内発表し、体育の方は、綿貫規巧研究主任のもと、指定をうけ「児童が、自ら進んでとりくむ体育科の学習」（ボール運動ゲーム化）について研究、五十三年十一月に全市発表しました。

このような研究実績の積み重ねから、昭和五十四年度は、関東ブロック放送教育研究大会の会場校としての要請を受け、山口俊一研究主任のもと「主体的な活動をうながすため、放送のもつ教育的特性をどのように生かしたらよいか」（社会・理科・道徳・校内放送）ということで二年間研究し、五十五年十一月二十日、全市発表しました。ことしも同じようなテーマで県の指定・市の協力校を受け、特に社会・理科・子どもの広場（TVK）校内放送の分野で番組の活用のしかたを研究し文書発表することになっています。

本牧南小学校十周年史

分校　真壁虎次校長時代

昭和四六・四・一　○横浜市中区本牧元町五八の三六に、鉄筋四階建の校舎が新築された。
○横浜市立間門小学校本牧元町分校として開設された。（教室数一八、敷地一三〇〇〇㎡）
児童数四九九名（一年～五年）　一四学級　職員数二四名　で発足した。
学区は、本牧元町・錦町・豊浦町・本牧埠頭・かもめ町と定められた。
五・一　○学校の水道が飲用水として使えるようになった。（本日までは水筒持参であった）
五・一二　○はじめての遠足を実施した。
五・一七　○給食を開始した。（本日までは、弁当持参であった）
五・一九　○テレビ視聴が可能になった。
六・一三　○校庭の土盛り工事が開始された。（体育は教室で行なうことになった）
六・一九　○分校開設祝賀式典を挙行した。（この日を開校記念日とすることになった）
六・二四　○学芸発表会を行ない、父母が多数参観した。
七・二　○校名が「本牧南小学校」に決定された。（本牧元町小学校・錦小学校・三溪小学校等の声もあった）
七・五　○本牧市民プールにて、水泳指導を開始した。
七・九　○第一回ＰＴＡ独立準備委員会を開催した。

独立　初代　安岡富士男校長時代

昭和四六・九・一　○独立開校して、横浜市立本牧南小学校となる。独立開校式典を挙行した。
九・一　○本校初代校長として、安岡富士男先生が着任された。
九・一六　○第一回ＰＴＡ総会を開催した。（初代会長に高野尚久氏が選出された）
九・二二　○通学用として八王子橋が完成し、渡り初め式を挙行した。
一〇・三　○第一回秋の運動会を盛大に挙行した。

昭和四六・一〇・二一　○秋の遠足を全校で実施した。（根岸森林公園）
一〇・二七　○横浜市児童体育大会で、スポーツ旗を受領した。
一一・二　○航空写真を撮影した。
四七・一・二〇　○校庭に植樹を行なった。（桜・梅・椿）
二・一六　○校章最終選考会が開かれ、校章がきまった。
三・二五　○第一回修了式を行なった。
五・一〇　○外柵フェンス工事が完了した。
六・一七　○開校を祝うスポーツ大会を開催した。
六・一九　○第一回開校記念日を祝った。
六・一九　○日光修学旅行にはじめて参加した。（六年生）
七・二一　○箱根夏季学校にはじめて参加した。（五年生）
八・二九　○プレハブ校舎が完成した。（集会や雨天体操場として活用した）
一〇・一三　○横浜市児童体育大会にはじめて参加した。（六年生）
一一・二八　○交通補導員（緑のおばさん）が着任した。
四八・一・九　○第一回書写展を開催した。
三・一二　○校歌制定式・校舎増築落成式を挙行した。（音楽室・理科室・普通教室七等が増設された）
三・二〇　○校舎正門が完成した。
三・二二　○第一回卒業証書授与式を挙行した。（職員室にて行なった）
七・二三　○夏季学校の目的地を富士五湖に変考して実施した。（五年生）
四九・二・二六　○横浜市児童音楽会に代表が参加した。
一一・一　○業間体育で、なわとび・ダンス・マラソン等をはじめた。
五〇・二・五　○校舎裏地一五六五㎡が本校用地として拡張された。（計一四五六五㎡となった）
九・六　○校旗が制定された。
九・六　○新校舎落成式典を挙行した。（講堂・家庭科室・普通教室四等が増設された）
一一・二六　○横浜市教育内容方法開発協力校として、研究発表会（特別活動）があり、学級会・学級指導・道徳の授業公開と研究成果の発表を行った。
一二・二　○優良ＰＴＡとして表彰された。
五一・二・六　○横浜市教育内容方法開発協力校として、研究発表会（算数）があり、授業公開・研究成果の発表を行なった。
三・三一　○初代校長安岡富士男先生が退職された。

二代　興石　桂　校長時代

昭和五一・四・一　○二代校長として、興石　桂先生が着任された。
六・一八　○創立五周年を祝い、スポーツ大会を開催した。
七・七　○第一回七夕集会を開催した。
一一・一八　○移動母親相談学級を開催した。
一一・一九　○健康をたたえる会に参加した。
一一・三〇　○ＴＶＫテレビ、教師の時間「児童のつまづきとその指導」で、本校の算数授業の様子が放映された。
五二・五・四　○ＰＴＡ校外見学（東京方面）を行なった。
八・二　○鉄棒の移設工事がなされた。
九・一三　○非常用放送機械が設置された。
五三・二・一四　○校庭に自作遊具を製作し、設置した。
二・二二　○体育館に助木が設置された。
三・一　○校舎東側（産業道路面）に防音壁が完成された。
三・一五　○スプリンクラーが設置された。
四・二〇　○敷地内にモクセイが植込まれた。
五・一二　○ＰＴＡ校外見学（深大寺）を行なった。
八・一六　○テレビアンテナが更新された。
八・一八　○校舎西階段に手すりが取付けられた。
八・　○非常階段の塗装工事がなされた。
一二・二五　○校庭に先生方の製作による自作遊具が設置された。
一一・二五　○校内授業研究会（音楽・体育）のため、講師を招へいして、研究を続け、中区研究会で授業公開を行なった。
五四・五・四　○ＰＴＡ校外見学会を行なった。
七・三　○ＰＴＡ学区散歩を行なった。
七・三〇　○東側三教室（産業道路側）の防音工事及び空調設備が設置された。
八・三一　○給食配膳室及び調理員室の拡張・改修工事が着工された。
一〇・　○学校西側の下水道の暗きょ化の完成により、学年や学級の花だんや遊び場（砂場）として利用される。
一一・一六　○ＰＴＡ鎌倉散策を行なった。

昭和五四・一一・二六　○ポンプ室の改修工事がなされた。
一一・三〇　○火遊びをしない子の集いに参加した。三年（横浜スタジアム）
五五・一・一六　○教室の窓下庇の補修工事がなされた。
一・三〇　○市小学校児童音楽会に参加した。（五年）
三・七　○外柵金網の補修工事がなされた。
三・一三　○校舎東側の防音壁延長工事が着工された。
四・二一　○神奈川県より教育放送研究推進校の委嘱を受け、五十五・五十六年度にわたって研究を続けている。

三代　長島　亘　校長時代

昭和五五・九・三　○二代目校長輿石桂先生が転任された。
九・四　○三代目校長長島亘先生が着任された。
一一・　○放送スタジオの拡張・改装工事が完了した。
一一・二〇　○関東甲信越放送教育研究大会発表会があり、テレビ放送を利用しての授業公開（社会・理科・道徳）と校内放送等の研究成果の発表を行なった。
五六・三・三一　○校舎前の苑池造り工事が完了した。
四・一〇　○横浜市より教育課程実践研究協力校（指聴覚教育）の委嘱を受け、研究を続けている。
五・一三　○給食室の増改築工事が完了した。
五・一三　○石油保管庫・ポリ容器置場工事が完了した。
五・一三　○印刷室の新設工事が完了した。
○図書室の新増設予定。
○保健室の拡張整備予定。
○男女職員更衣室・トイレの改装予定。
六・一七　○創立記念スポーツ大会を開催。
六・一八　○創立十周年記念式典を挙行。

創立十周年を記念する児童の作品

作文・詩

十才おめでとう

二年　いいじまのぼる

本牧南小学校、十才おめでとうございます。もうすぐ、六月十九日で十才ですね。ぼくたちより三つ大きいですね。ぼくも早く大きくなりたいとおもっています。

　むかし、まかど小学校のせいとがおおくなったから、みんなでそうだんして本牧南小学校をつくったんですね。そのとき学校ははんぶんしかなくて、プールもたいいくかんもなかったんですね。だれが本牧南小学校という名まえをつけてくれたんですか。

　ぼくがこの学校へはじめて来たとき、つるつるしたゆかいたで、ロッカーもピカピカできれいな花がかざってありました。いまではとしょしつもりかしつもプールもたいいくかんもきょうしつもふえて四十六年のときよりもずっとりっぱになってよかったとおもいます。

　ぼくはこの学校がすきです。この学校をいい学校にしたいです。みんなでがんばってあかるく元気な学校にしたいとおもいます。

　六月十九日は、おたん生日のおいわいをするそうです。どんなことをしてもらいたいですか。スポーツ大会をしたり文しゅうを作ったりします。

　これからぼくたちは三年生になり、四年生になり六年生になって、そつぎょうします。ぼくたちがおとなになってもいつまでもなが生してください。

本牧南小学校、おめでとう

三年　伊吾田　宏　正

　ぼくが、一年生に入学してはじめて来た時教室のドアの上のところに花かざりがありました。たぶん、六年生が作ってくれたと思います。一年のころ立って本をよんだ時もあります。それから、二年たって、三年生です。本牧南小学校は、もう十才です。ぼくのたんじょう日は六月十七日だけど本牧南小学校は六月十九日です。ぼくのたん生日の方がちょっと早いけど、生まれたのは一年ちょっとちがいます。ぼくは、三年まで勉強や体育をしてきましたがこの学校にはこんど新しいきゅう食室ができました。この学校が、十二才か十三才になった時、ぼくは、ひっこすかも知れませんが、行きたくないです。だって、大がたのトラックや車の通るさんぎょう道ろや三けいえんや、タンクがいっぱいあるコンビナートのそばがやっぱりいいと思います。時どきぼくはもし南小が今の場所から、ひっこした時、後はなにになるのかなと思います。いろいろ考えたけれども、やっぱり、本牧南小学校は、ここがいいです。だから、ずうっとこの場所で百年、二百年と生きていってほしいと思います。

本牧南小学校

四年　笛木　美智子

　今年で、本牧南小学校は10才、10年間の間火事や、地しんがなくて本当によかったと、思います。大きい、運動場は、校長先生始め先生方の心のこもった運動場なので、大切に使いたいと思います。この、本牧南小学校は今の四年生が生まれたころできた学校です。わたしが、入学したとき、この本牧南小学校は、6才、わたしは、入学したときから4回目のおたんじょう日をむかえることになりました。わたしは、いなかえ行ったとき、車の中でいろいろな小学校を見ました。けれどもやっぱりこの本牧南小学校が、一番すてきな学校です。しんせきの人たちが、わたしのいえへあそびにくると「この、本牧南小学校の運動場は広いね」と言います。わたしは、よく考えますがそんなことをきくと「ほかの、小学校は、うんどうじょうそんなにせまいのかな」と、時々かんがえます。このごろ、ふん水もでき、ふんすいにはたくさんの、こいや、きんぎょがはなしがいになってかわれています。プールも広いしこの本牧南小学校は

めぐまれていると、みんな言います。わたしはこの本牧南小学校に入学してよかったなと思います。本牧南小学校　ほんとうにおたんじょう日おめでとう。

創立記念日

五年　斉藤　早苗

本牧南小学校、10才のおたん生日おめでとう。わたしは今年十一才ですから、わたしが一才の時に南小学校ができたのですね。まだ新しい学校です。

わたしが五年生の時、十周年記念をする事は、いつまでも心に残る思い出になる事でしょう。

わたしは、五才の時福島県の郡山市から、横浜市にひっこしてきました。横浜にきて、七年目です。

校歌にもある様に、昔、この辺は海だったそうです。今は、工場や船のつくふとう、そして倉庫がたくさんあります。又すぐ近くには、いろいろな草花がある三けい園、一年生の時、三けい園に遠足でいったけどあまりおぼえていません。市民公園、そしてりん海公園など静かな、緑のたく山ある公園もあります。

私は、南小の校歌がすきです。お母さんも「曲がいいね」と言って時どきうたいます。

日本一の横浜港のすぐそばにある南小学校。南小の思い出は、これからも、ずっと心に残ると思います。いつまでも、元気で明るい本牧南小学校でいてください。

本当におめでとう。

十周年をむかえる学校

六年　加藤　しのぶ

もうわたしの学校も十周年
たんじょう日おめでとう
いままでにいろんなことがあっただろう
ときには遠足へいっておるすばん
たくさんの卒業生をおくっただろう

お祝いに六年生から
合奏をおくろう

れんしゅうは足がぼうになる
小さいトレモロ
やさしく　きれいに
大きいトレモロ
強く　広がり
四十人のなかまと音楽をつくる
今
木琴がたのしそうにお話している
話しかけると
もうひとつの木琴がこたえてくれる
アコーディオンがつづきのお話をする
シンバルがよびかける
音楽がおわる
かたをおろして
ため息をはく
みんなも一生けんめい
学校もきっと喜ぶだろう
わたしの思い出として
ふかく　ふかくのこりますように

六年　田沼　忠浩

心ぞうは、いつも動いている
心ぞうが動いている
いろいろなことがおこる
学校に行るときも
心ぞうは、動いている
いろいろな物に心ぞうがある
学校の心ぞうは
どこにあるのだろう
それはきっと
ぼくたちなんだろう
ぼくたちが
勉強をすればするほど
学校は生きつづけるだろう
もし　ぼくらが　いなければ
この学校は
一生　生きかえらないだろう
ドキン　ドキン　ドキン
今、心ぞうは
力強くなっている。

図　工

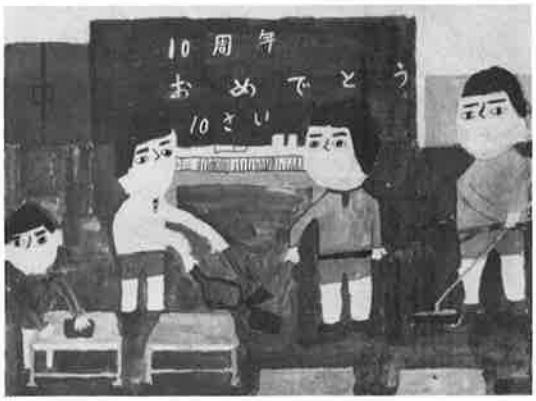
1年　たかはしきぬえ

1年　もんま　ゆ　み

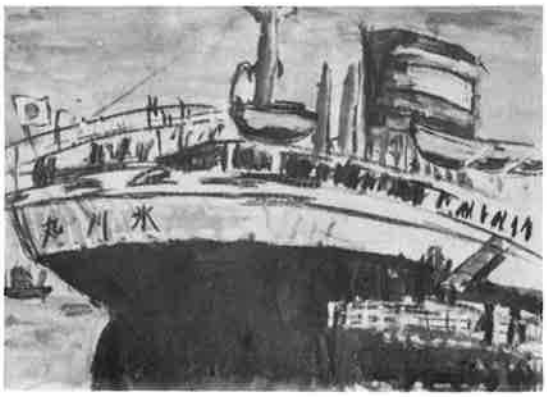
1年　お　だ　みのる

2年　久保谷　健　一

3年　関　本　正　樹



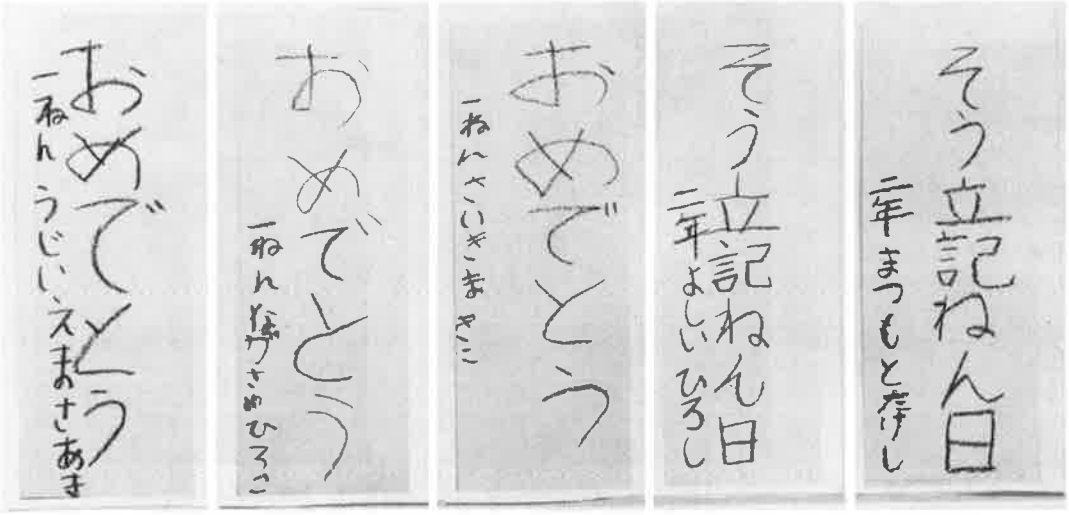
4年　塚　越　正　樹



5年　福　富　雄　一

6年　山　崎　好　男

習　字


そう立記ねん日
二年まつもと
そう立記ねん日
二年よしいひろし
おめでとう
一ねんさいぎまさこ
おめでとう
一ねんなかさかひろこ
おめでとう
一ねんうじいえまさあき

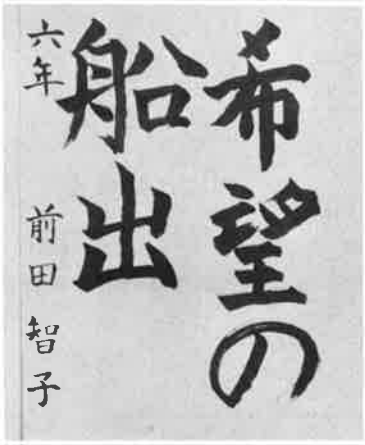
そう
川
四年
大内美由紀
川
二年
村田恵美
川
三年
松本洋子

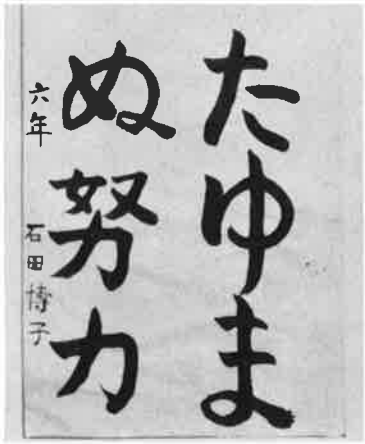
希望
五年
宮川章子
はばたけ
四年
松本佳恵
十周年
記念
四年
永井真理

老松の彩
六年
高木正志

祝創立記念日
五年
井出本将見

希望
五年
青山裕司


希望の
船出
六年
前田智子


たゆまぬ努力
六年
石田博子

五、本牧南小学校の現況

本校教育目標

1. 自ら考え　合理的に判断し　実行する子
2. ねばり強く最後までやりぬく子
3. 生命の尊さを知り心身共に健康な子
4. 規則を守り責任をもって行動する子
5. 自然を大切にし情操豊かな子
6. 人の立場を理解し責任を感じて助け合う子
7. 郷土や国を愛しその発展のために進んで協力する子

教育方針

- 基礎学力の向上ー進んで考える子
- 生活態度の向上ーけじめのあるきまり正しい子
- 健康の増進ー元気でやりぬく子
- 豊かな情操ー明るく思いやりのある子

児童のめあて

学年目標

基礎学力の向上ー進んで考える子

- 1年　はっきりと　話せる子
- 2年　よく気がつき考える子
- 3年　問題に気づき進んで話し合える子
- 4年　問題解決のためにたがいに努力する子
- 5年　課題を見つけ計画的に学べる子
- 6年　課題に向かって創造的に学べる子

生活態度の向上ーけじめのあるきまり正しい子

- 1年　やくそくの　わかる子
- 2年　きまりを　守る子
- 3年　けじめのある子
- 4年　規則正しいくらしができる子
- 5年　よい生活習慣をつくり出す子
- 6年　節度ある生活態度がとれる子

健康の増進ー元気でやりぬく子

- 1年　外で　元気に遊べる子
- 2年　最後まで　やりとげる子
- 3年　なにごとも思いきりとりくむ子
- 4年　のびのびとした　行動力のある子
- 5年　心と体を　きたえる子
- 6年　心身ともに健康な子

豊かな情操ー明るく思いやりのある子

- 1年　自分かってを　しない子
- 2年　だれとでも　仲よくできる子
- 3年　友だちに　やさしい子
- 4年　互いに協力して　実行する子
- 5年　責任をもって　実行する子
- 6年　責任を自覚して進んで協力する子

職　員　組　織

○学校長　長島　亘　　○副校長　磯崎和夫　　○教諭　２９名　　○養護教諭

○事務主事　　○用務員　２名　　○調理員　４名　　○管理員　　合計４０名

○校　医　　内　　科　　佐々木舜一（本牧港湾診療所）

眼　　科　　荻野　紀重（荻野クリニック）

耳鼻咽喉科　　田島　博哉（田島耳鼻咽喉科）

歯　　科　　大竹　照子（本牧歯科）

外　　科　　杉山　浩一（本牧外科病院）

薬　剤　師　　堤　　哲郎（ヒル薬局）

学 級 の 編 成　　昭和56年5月1日現在

学年	組	職名	氏　　名	児童数 男	女	計	学年計
1	1	教諭	川辺美佐子	24	17	41	
	2	〃	黒崎　靖典	24	19	43	
	3	〃	木村　和子	23	19	42	
	4	〃	原橋由美子	24	18	42	
	特殊	〃	佛谷富美子		2	2	170
2	1	〃	杉山　サト	18	20	38	
	2	〃	橋本　公成	19	18	37	
	3	〃	大泉　友子	18	19	37	
	4	〃	織間サワ子	17	21	38	150
3	1	〃	石田　禎子	20	21	41	
	2	〃	杉原　和子	20	20	40	
	3	〃	山口　俊一	20	20	40	
	4	〃	河原好子（茅野照子）	20	21	41	162
4	1	〃	高智　哲子	24	16	40	
	2	〃	谷口信市郎	21	18	40	
	3	〃	伊志嶺順子	23	16	39	
	4	〃	阿部　重夫	23	16	39	
	5	〃	小雀節子（佐藤直久）	22	17	39	196
5	1	〃	大場　憲治	22	22	44	
	2	〃	宮下　玲子	21	22	43	
	3	〃	川瀬　節子	22	21	43	
	4	〃	佐野　乃策	21	22	43	173
6	1	〃	会田　貞子	17	25	42	
	2	〃	堀田　敏治	17	25	42	
	3	〃	勝田　雅子	19	24	43	
	4	〃	藤本　茂伸	17	25	42	169
計				516	504	1020	1020

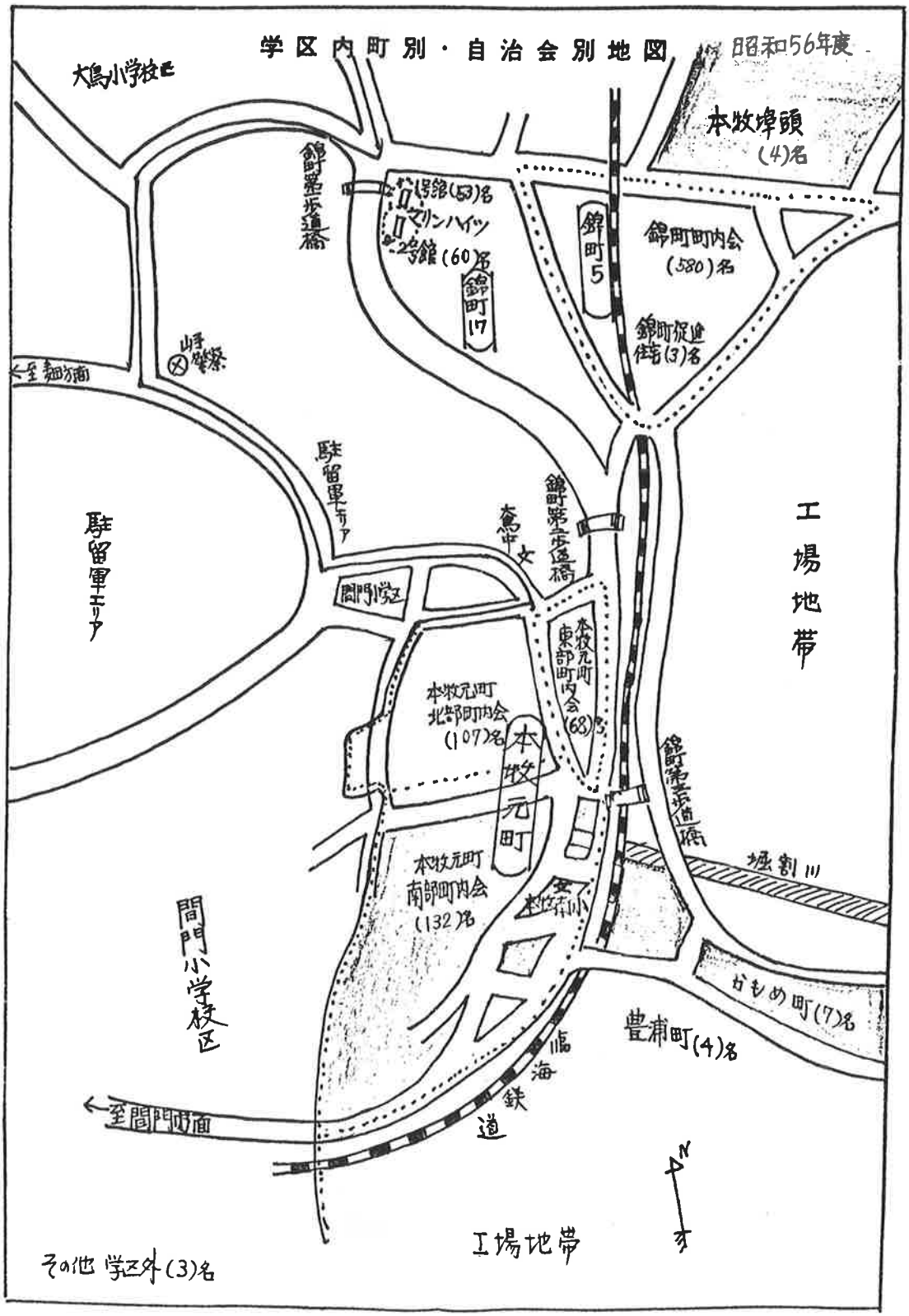
町内別児童数	
本牧元町	
北部	107
南部	132
東部	68
錦町	
港湾団地	580
促進住宅	3
マリンハイツ	
１号館	53
２号館	60
本牧埠頭	4
かもめ町	7
豊浦町	4
その他	2
	1020

専　　科	鈴木　博子（音楽）　吉野　広野（家庭）　神崎　和夫（体育） 坂井　悦子（養護教諭）　田中由紀子（事務主事）
調　理　員	田村　順子　　牧野恵美子　　杉本日出子　　佐藤　嘉子
用　務　員	羽田　茂穂　　児玉美智子
管　理　員	林　　行夫

現　職　員

（56. 5 現在）

川瀬　節子
小雀　節子
河原　好子
大場　憲治
橋本　公成
宮下　玲子
大泉　友子
川辺美佐子
織間サワ子
神崎　和夫
佐藤　嘉子
田中由紀子
谷口信市郎
佐藤　直久
原橋由美子
高智　哲子
田村　順子
児玉美智子
牧野恵美子
杉本日出子
伊志嶺順子
大石　咲枝
杉原　和子
茅野　照子
石田　禎子
坂井　悦子
木村　和子
佐野　乃策
羽田　茂穂
杉山　サト
黒崎　靖典
阿部　重夫
山口　俊一
鈴木　博子
藤本　茂伸
勝田　雅子
長島　亘
磯崎　和夫
堀田　敏治
会田　貞子
吉野　宏野
佛谷富美子


学区内町別・自治会別地図
昭和56年度
大島小学校区
本牧埠頭
(4)名
錦町第一歩道橋
パレスマリンハイツ
2号館(60)名
錦町17
錦町5
錦町町内会
(580)名
錦町促進住宅(3)名
山手警察
至麻布方面
駐留軍エリア
駐留軍エリア
錦町第二歩道橋
鳥中
女
間門小学校
工場地帯
本牧元町東部町内会(68)名
本牧元町北部町内会
(107)名
本牧元町
錦町第三歩道橋
堀割川
本牧元町南部町内会
(132)名
女
本牧小
間門小学校区
かもめ町(7)名
豊浦町(4)名
臨海鉄道
至間門方面
工場地帯
その他 学区外(3)名